

# 「見つけた！豊岡元気人」

玄武洞と言えはわじやる!



## 豊岡の素晴らしさを

### 多くの人に伝えたい!

「NPO法人玄武洞ガイドクラブ」事務局長として、豊岡や山陰海岸ジオパークの魅力を発信する活力あふれる男性を紹介します。

木下道則さん(65歳)日高町久斗



玄武洞ガイドクラブの仲間と



パネルを操作し、来園者に玄武洞を紹介



玄武洞の前で

玄武洞公園でガイドをして  
いる木下道則さんは、北海道  
生まれ。平成23年に山梨県甲  
府市から豊岡に移住。玄武洞  
公園でのガイドを通じて豊岡  
の魅力を発信しています。

### 玄武洞との出会い

豊岡で暮らしながら、自身  
がこれまで培ってきた経験を  
地域のために生かしたいと考  
え、仕事を探していたところ、  
緊急雇用創出事業の玄武洞ガ  
イドを勧められました。営業  
の経験があり、人と話をする  
ことが好きだったため興味を  
引かれました。玄武洞の様子  
を見に行つたところ、ガイド  
の仕事ぶりなどを見て「面白  
いことをやっているな」と思  
い、すぐさま応募。採用され  
ました。

ガイドをするには、豊富な  
知識が必要となります。また、  
知識だけでなく、伝え方など  
も、先輩ガイドを手本に試行  
錯誤を重ね、来園者一人一人  
に合わせた案内ができるよう  
心掛けています。

ガイドの魅力は、案内を終  
了した時の感謝や喜びの言葉  
「拍手をいただく」と最高です」  
と微笑みます。

### 玄武洞ガイドクラブ

1年間、ガイドを務めた上  
で、どうにも納得できないこ  
とがありました。「なぜ、1年  
の有期雇用なのか」。緊急雇  
用創出事業の雇用期間は最長  
1年。ガイドとして成熟した  
ころに終了。このような繰り  
返しでは「玄武洞を訪れる観  
光客に満足していただけるお  
もてなしができないのでは  
ないか」と疑問を持ちました。  
そこで、玄武洞でガイド経験  
のある仲間を集め「NPO法  
人玄武洞ガイドクラブ」を立  
ち上げ、継続してガイド活動  
ができる団体を作りました。

NPO法人になったことで、  
より活動の幅が広がりました。  
平成25年には、玄武洞公園の  
ライトアップを実施。以前か  
ら要望は多かったものの、国  
立公園内での実施には多くの  
課題を抱えていました。しか  
し、「熱い思いをぶつけないと  
人は動かせない」という信念  
の下、情熱と行動で課題を一  
つ一つ解決していき、許可を  
得ることができました。

豊岡全体での連携も重視し  
ています。足元を照らす灯籠  
は、竹野浜自治会ロジナリエ

実行委員会から借りました。  
「地域や他団体と連携するこ  
とで共感を得てもらい、皆で  
まちを良くしていくことが大  
切」と熱く語ります。

### 豊岡を活気のあるまちに!

今後は「教育旅行にも関わっ  
ていきたい」という木下さん。  
「外部から人が来ないと刺激  
のないまちになってしまう」。  
豊岡の魅力を都市部の若者た  
ちに伝え、移り住んでもらい、  
活気のあるまちにしていくな  
が課題であると語ります。そ  
れには「今の世の中を作って  
きた我々、団塊の世代がもつ  
と頑張らないといけない。ま  
ちが活性化するような仕組み  
を作り、次の世代に渡す義務  
がある。胸を張って渡せるよ  
う、最後のご奉公をしたい」と、  
はにかんだ笑顔で話します。  
そんな木下さんの趣味は釣  
り。甲府に住んでいた時は、  
新潟県の直江津まで車で3時  
間かけて出掛けていたとのこ  
と。豊岡に移り「海が近くな  
ってうれしい」と笑顔で話し  
ますが、多忙な身の上、ゆっ  
くり釣りを楽しむことができ  
るのは、しばらく先のことに  
なりそうです。

# ま ち の 話 題



▲職員が扮する福の神からお菓子をもらう子どもたち

2月3日、竹野子育てセンター(竹野町和田)で、節分行事が行われ、親子約50人が参加しました。

豆まきでは、親子が「イライラ鬼」「ガミガミ鬼」「甘えん坊鬼」など、自分の中の退治したい鬼を紙に書き、豆をぶつけました。豆まき後、センター職員が扮する福の神からお菓子のプレゼントがあり、皆で食べました。

子育て中の大濱千香代さん(竹野町竹野)は「センターでは、季節の行事に触れられる。今回は、子どもに節分のことを教えることができた」と話していました。

**節分行事**  
自分の弱い部分を退治しよう!!

2月12日、「城崎かるた」の寄贈式とかるた大会が城崎中学校で開催されました。

豊岡市商工会青年部城崎支部が地域振興事業として昨年5月からかるた制作に取り組み、同支部員が絵札にするキーワードを選定しました。続いて、読み札の文章案を城崎中学校の生徒が考え、大阪デザイナー専門学校が絵札を描きました。

かるた大会には、城崎小3年生と城崎中2年生の50人が参加。地域振興委員長の谷垣賢司さんは「このかるたを通して、ふるさと城崎の宝を学び城崎を好きになってほしい」と話していました。大会終了後も、かるたで遊ぶ子どもたちの姿が印象的でした。

「城崎かるた」寄贈式・かるた大会  
城崎の魅力・思いがいっぱい



▲大人も子どもも一緒にかるた取りを楽しむ

## 笑顔の輪

「百人一首を楽しむ」同好会です

あさみどり会

新春の恒例行事として、今年も地区公民館や学園など各所でかるた会が開かれました。

豊岡地区公民館では1月18日に「新春かるた大会」を開催。22人が百人一首でかるた取りの腕前を競いました。

今回紹介する「あさみどり会」は、この大会で読み手や審判を務めるなど、長年競技の運営に関わっています。「写真右」。



▲競技の運営に活躍するメンバー

きつかけで、百人一首のかるたを始めました」と話します。

あさみどり会の結成は、平成14年のこと。「指導ばかりでなく「私にも楽しみたいな」「冬の一時期だけでなく、かるたを年中やりたいな」と思っ作りました」と芝野さんは振り返ります。

現在、会員は、小中高生から70代の方まで約20人。例会は、毎月第2・4土曜日の午後7時から豊岡地区公民館で開いています。

会では「幼児を含む家族全員で楽しめます。気軽に参加を」と呼び掛けています。



▲以前は市外からの参加もあった(例会で)

私が子どものころからありました。公民館主催事業として指導を頼まれてから30年以上経ちます」と代表の芝野勝美さん。百人一首は、小学生のころ家族で遊んで覚えたそうです。

同じく指導員の瀧本恒夫さん、山下昌子さんは、それぞれ高等学校や公民館行事で「読み手を依頼されたことが

の由来は、万葉集の「浅緑染めかけた」と見るまでに春の柳は萌えにけるかも」の歌から付けたとのことでした。

申込み・問合せは芝野さんへ  
FAX 22-2745

※「笑顔の輪」の拡充版を市ホームページに掲載しています。